

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 19 年 5 月 25 日
事業所名	グループホームよろこび 2階
事業所番号	23714000959
記入者名	職名 管理者 氏名 服部照美
連絡先電話番号	

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関わりは以前より大切にしていたが、昨年より地域密着型サービスとして位置付けられたことに鑑み、従来の運営理念に、より地域との関係性を強く表現する文言を加えた。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の全体会議においては特に、入居者様やそのご家族に対する「接遇」面に関して、事例を挙げたり、シミュレーションなどの方法を取り入れたりして、理念を印象深く再確認できるように工夫している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	『グループホーム便り』を作成し、地域の回覧板にのせていただいている。 これは地域の町内会長様が運営推進会議に参加していただいているところから、お願いし実現している。	○ 運営推進会議に参加していただいているご家族以外にももっと現状の取り組みをお知らせすることが重要であるので会議報告書を郵送するなどしたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者様との散歩の際など、できるだけ挨拶をするようにしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加しており、町内の掃除やお祭りなどに参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の回覧板の中に『グループホーム便り』を入れていただいております、その中で地域の皆さまに対して、認知症や介護に関することなどを入居の有無に関わらず相談にのらせていただく旨をうたっている。	○	平成18年度に一度実施している「認知症の勉強会」をまた開催したい。平成18年度は地域の皆さま70名近い方々の参加をいただいた。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価が何故必要であるか、全員に説明している。また地域密着型の主旨も説明している。評価後の報告書については全員に「要改善」項目を周知し、改善に役立てている。また良い評価の部分も周知し、自信につなげている。自己評価はパートも含め全員が項目を読み、記述しており、それをまとめた形で作成している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場では利用者様の状況やホームでの行事内容などを毎回報告している。外部評価については「要改善」項目は残らず報告し、誉められた点も適度にアピールし、改善に向け役立っている。またその時々での取り組み課題も取り上げ、参加者に相談として持ち掛けている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を含め市町村との定期的な意見交換の場は設けられていない。	○	運営推進会議への参加を求めるなどしてゆきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度については母体組織である病院のケースワーカーに相談し助言を受けていると伴に、1回/月の会議に同席してもらい問題があればいつでも対応できる状況である	○	職員全員が「地域福祉権利擁護事業」の存在を知っているとは言えないが、見える場所に「グループホーム利用者の権利」を掲げることで、権利擁護の精神は理解している。 今後は社会資源としての制度を学ぶ機会をつくっていききたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オンブズマンネットワーク協議会の研修会などを利用している。 「身体拘束」や「言葉による拘束」などについて、職員全員のアンケートをとり、それを事例として全員で話し合った。「ちょっと待って！」すら言葉の拘束であり、虐待であるのだと理解するよう指導し、常に意識の中に虐待の芽が芽生えぬ心構えを持つよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書他については必ずご家族またはご本人に説明し、理解、納得していただいている。ターミナルケアの考え方や対応できること、できないことも丁寧に説明している。 また解約についても説明しており、解約に至った時でもご家族が不安になることの無いよう、十分な対応をしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に入居者の中に入り、困っていることはないか、住みにくいところではないか、やりたいことはないか等、聞いている。	○ 個々には聞いていたが、全員での話し合いはなかったので、入居者様の「雑談会」を1回／月設け、いろいろな話し合いをしていきたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1回／月の「よろこび便り」で、生活の様子、健康状態、金銭出納、職員の異動、行事予定などをお知らせしている。また行事への家族の参加も呼びかけている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を受付窓口に設置している。「よろこび便り」にはご意見ご希望があればいつでも職員におっしゃってくださいよう、お願い文を載せている。 重要事項説明書には苦情申し立て先としてオンブズマンの連絡先も記載している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティングで機会を設けている。そこで各入居者の状態や職員の困りごとなどを話し合っている。 また管理者は気軽に職員に声を掛けており、何でも言える雰囲気を作っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	新たな入居者が入居した時には特に気を付けて、職員を配置するようにしている。また入居者の生活を良くわかった職員が配置されている。 夜勤には馴染みの職員が配置されている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来る限り職員の異動はしないようにしている。やむを得ず異動した職員や新人職員が勤務に付く時は、先輩職員と同じ時間帯の勤務に付きマンツーマンで指導できる体制をとり、約1ヶ月程度かけフォローを行い、利用者の戸惑いを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立てて実施している。外部の講習会、研修会などに積極的に参加している。内部的には勉強会を定期的に行っており、ワークショップも行う計画である。また年間計画に織り込まれていなくても、必要だと思ったものは積極的に受講している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市認知症高齢者グループホーム協議会に加盟しており、そこが主催する研修などに出席させている。地域の同業者と合同で、会場は公共施設を借り、入居者の5割近くが参加して、輪投げ大会を実施するなどしている。	○	相互訪問を実施し、お互いに良い部分を見習うという関係にまで発展させたい
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員については建物内は全面禁煙としているので、一服しながら一息入れることは出来ないが、入居者様と離れた場所に会議室兼休憩室兼ロッカールームがあるので一息入れる環境はある。また、事務局の事務所が施設に隣接して在るため、いつでも寄って不満や意見を言えるようにしている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は職員全員に目を行き渡らせ、個人個人の良い面を伸ばすよう対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に訪問し面識を得るようにしている。入居時入居後には頻回に様子を伺うように努めている。 また入居者様の「生活史」などを伺いながらスタッフと入居者様が理解し溶け込めるように話す機会を増やすようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族がどのようなことで悩まれ、利用希望に至ったかを相談時に伺い、受け止められることまたご家族に協力を仰ぎたいことなどをじっくり話し合っている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の時点で空室がない場合は、入居までの間どう対応するかをケアマネージャに相談し、他のサービスを紹介してもらうなどしている。また可能ならば現在のサービスを継続し、待っていただいている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人がホームに慣れるまでは、特に職員間での情報の共有を大切にし、申し送りなどで細かく様子を伝えて、介護に役立てている。本人の安心や納得を得るためには場合によっては電話で声を聞いていただくなど、ご家族の協力を仰ぐこともある。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活において、料理、洗濯干し、畑仕事などの作業を共に行うよう心がけている。 また入浴時やレクリエーションの際に、年齢を重ねてこそ備わる「知恵」をいただいて、学んだり、共感したりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月に一度お便りをし、近況や健康状態を伝えたり、何かあったら何でも言って欲しい旨の呼びかけをして、家族からの要望に耳を傾けるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月に一度のお便りの中で行事への参加を呼びかけたり、文面の中でさりげなく訪問をお願いしたりして、疎遠にならないよう働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の事情を配慮し、積極的には実施していないが、ご家族と外出される折には、皆さま楽しんでいただいている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常のレクリエーションの中で、入居者同志のコミュニケーションが計られるよう、工夫し考えながら行っている。	○	同じユニットに留まらず他のユニットや兄弟グループホームの入居者とも関係を広げるようにして行きたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族より相談の電話があれば、親切に対応するようにしている。 また、ご本人やご家族と出会ったときには必ず声を掛け、どうされているか伺い、困った時には相談に来てくださるようお誘いしている。	○	退去された方への郵便物の送付はしていないため、今後はお便りを送らせていただき、退去後の様子をお知らせいただけるようになれば良いと考える。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とのくつろぎの時間(入浴、散歩など)を利用して会話の中より情報を得、それを職員間で共有し、希望や意向を理解できるようにしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴を時間をかけて聞き取るようにしている。また家族の方からお話を伺い、情報を得るようにしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出勤時個人ファイルの記録と職員の申し送りで情報収集し、入居者と挨拶しながら現状を理解し介護に入る。日々の介護の関わりのなかで、本人の性格、できること・できないことを知り、発見する努力をしている。	○ 介護計画に沿った介護を推し進め、入居者の「できること」をさらに伸ばす。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては入居者本人とよく話し合い、担当職員とミーティングを行い日常生活の中で入居者の出来ることについて話し合いそれを基に作成している。また家族が面会に来た時に介護計画の説明をし家族の意向を聞き介護計画に反映させている。	○ 介護計画をより忠実に実践する
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しについては日々の生活の中で職員が気づいたことは報告してもらいそれについて観察し、改善点を出し見直すように努力している。その後の効果については日常的に職員と話している。また、入居者健康状態日常確認表を活用している。	○ 日々状態が変わるために見直しが出来ない場合もあるが現状介護が出来るプランを作るように努力してゆきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ひとり一人のケアの記録は個別のファイルに記載している。職員の交代時には申し送りをし、情報を共有している。 また、連絡帳も活用している。	○	記録内容が今以上に「介護に生かせる記録」になるよう、介護職員全員に周知し、指導している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	選挙の投票など付き添い、本人の社会生活参画意識に訴えるサポートをしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的にボランティアに来ていただいている方が複数居られる。 民生委員には運営推進会議に参加していただいている。 近隣の小学校及び緑警察署と連携し「こども110番」にも協力させていただいている。 また「こども安全ボランティア・安全パトロール」も入居者様と一緒に近所の公園を主におこなっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のボランティアを受け入れている。 入居者の必要に応じて美容のサービスを受けられる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターを利用するまでには至っていないが、運営推進会議において民生委員に参加をして頂いたり、他のサービス事業者との共同開催行事などを行い、地域に根ざしたホームとなるよう努力している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が3箇所あり、近隣のため状態に応じた医療機関が受診できる体制がとられている。入居者、家族が希望する協力医療機関に受診されており、受診には職員が付き添い、医師への情報提供も細かく行っている。	○	受診には家族がほとんどいらっしやらないため、時には一緒に受診に付き添っていただけるよう、働きかけたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	今春より、協力医療機関に認知症の専門医が就任されたので、入居者様には全員受診していただいている。	○	入居者様の認知症の進行を少しでも遅らせるよう、アドバイスを受け、治療に協力していきたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を確保している。毎日の健康状態をチェックし、記録している。また、記録は1週間ごとに医師が内容をチェックしている。	○	受診するまでもないようなチョットしたことを電話で相談し、指示がいただけるような医師との関係を築ければ良いと考える。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中にはお見舞いに行きながら、入院先の病院関係者より様子を伺うようにするとともに、退院の予定がわかれば聞いている。また、元気づけ、早く戻ってこられるよう励ましの言葉をかけるようにしている。入院先に介護情報を提供し、入居者様の特徴を少しでも多く理解していただくようにしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合家族の希望を聞き医療機関と連携している。急変した時にはどうするのかについては事前に家族と話し合いが出来ており、全職員も方針を共有して、その体制でケアしている。また本人や家族が安心して暮らしていけるようサポート体制を確立している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合又は終末期については早い段階で医師と連携して急変時にはどうするのか指示を受けながら支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者が他に移った場合には情報用紙(ケアプラン・支援状況アセスメント)で伝えることによって、引き続き安心して生活できるような引継ぎを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	目につきやすい場所に記録する際は実名を書かず、イニシャルを使用している。また、入居者間で、心配して、症状を尋ねられた時もプライバシーを尊重し上手に受け答えをするようにしている。 また言葉掛けについては常日頃から誇りを傷つけないような言葉掛けをするよう徹底して教育している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員が決めるのではなく、入居者の意見を尊重するよう心がけている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体的な流れの中で、一人ひとりのペースを大事にしている状態である。理想ではあるが、全員に対し個別の支援はできていないのが現状である。	○	自分のユニットだけでなく、他のユニットで行われる日常のレクリエーションにも、ユニット横断的に参加できるよう、選択肢が増えるような方法を取り入れたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に一度、NPO訪問理美容を利用している。現在は要望がないため、本人の望む店へ出かけてはいない。	○	ご家族とも相談して、近くのサロン等を利用し、気分転換と同時におしゃれを楽しんでいただけるような

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に8～10回くらい「クッキングの日」「おやつの日」を設けて入居者と一緒に調理や準備を実施している。特におやつは入居者が積極的に参加され、皆で楽しくいただくことが出来ている。	○	メニューの決定はなかなか要望が出ず、つい職員先行でなされている感が強いので、入居者と話し合い、上手に希望を聞き出すようにして皆で作った献立が出来ると、もっと楽しいものになると思う。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、タバコを嗜む方はいない。 お菓子や飲み物は個人で購入されている方も居られる。 おやつや飲み物は個人の嗜好に合わせ、量なども調節している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間を見て声掛け及びトイレ誘導をするようにしている。夜間にはポータブルトイレの設置をするなど、無理なく排泄していただけるようにしている。 またトイレの清潔には常々気をつけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間帯はある程度決まっているが、説明をし納得していただいている。また、公平になるよう順番制をとっているが、体調や気分によっては順番を入替えることもある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間安眠できるよう、昼間はなるべく起きていただいている。 生活のリズムを乱さないように注意し、眠前には静かで穏やかな精神状態が保てるように努力している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人個人の得意な分野を把握し、その場面その場面で声掛けし、役割づくりをするよう働きかけている。 洗濯物干し、メニュー書きなどしていただいている。 たまにはカラオケをやり気晴らしをしてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ご自分でお金を持ち、管理している方はいませんが、希望があれば持っていただくようになっている。 職員が預り金として管理しているが、必要なものを希望通りに購入することは出来る体制になっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	極力、毎日散歩に出るよう心がけている。 クッキングやおやつ作りの材料購入にも同行していただいたりしている。またそれらを拒否される方には日光浴を勧め、戸外の空気に触れ、季節を楽しんでいただけるよう取り組んでいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望を募り、絵画展、展示会、足湯、外食など出かける機会を設けるなど、積極的に取り組んでいる。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には年賀状の支援をしている。 電話も希望があれば対応している。	○	出来るかたには、家族への手紙を書いていただく試みを実施してみたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族、知人等が尋ねてこられたときには、明るく対応し、再度尋ねやすい雰囲気づくりをしている。 入居者と居室やホールで自由に会話を楽しまれている。その際にはお茶や、ささやかだがお菓子なども提供している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行われていない。 また言葉による拘束(対応的拘束)にも気をつけるよう合同会議にて周知徹底している。 新任職員への教育の中でどのような行為が拘束にあたるのかも指導している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い方がおられ、ホームの前の道路が交通量が多いこともあり、やむを得ず安全確保のために玄関に鍵をかけているが、他の入居者やご家族には理解していただいている。 また外に出たそうな雰囲気を感じた時は散歩に誘い、出来るだけ閉塞感や抑圧感を感じないように努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間はフロア全体を見渡せる場所に必ず一人はスタッフがおり、いつでも対応できるようにしている。 居室におられる方についてはもの音に気を配っている。またケアコールもついている。 夜間は定期的に居室の様子を見に行き、入居者が安心できるよう支援している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要なものを使用するときは必ず職員が近くで目を離さないように注意し見守っている。 使用後は員数を確認し、管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒しないよう、常に目配りをして骨折予防薬も内服していただいている。窒息予防に嚥下体操を行い、嚥下不良者にはキザミやミキサー食にして食べていただいたり、トロミンなども利用している。 誤薬に対しては間違いの無いよう複数回の確認を行っている。また、朝礼時入居者様の要注意点など引継ぎ事故防止に役立っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎日バイタルチェックを行い異常の変化にいち早く気づくよう努めている。また看護師も毎日全入居者と面談し異常の早期発見と治療の支援を行っている。 異常発見時はすぐ受診に引率し医師のアドバイスを受け、処方をしてもらっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。避難路には物を置かないようにしている。また非常用食料も確保している。地域との避難・訓練協力体制は町内会のレベルで協力を仰いでいる。 非難マニュアルは整備されており、緊急連絡網も整備されている。	○	避難・救助体制等について、地域との協力体制が具体的且つ確固たるものとして整っていないので、今後進めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	ご家族がいらした際に、日常の様子とともに、起こりうる危険についてはお話している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックも含め小さな異変も介護記録に残している。それらはスタッフの引き継ぎ時、申し送りされ管理者も含め全員で共有している。また、別途看護師による毎日の健康状態チェックも行われており、早めの対応が可能になっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員個人個人で入居者の薬剤情報を把握するため、一覧表を作成し日々理解するよう努力している。何度も確認するシステムを作り、処方薬の変更があった際には皆で綿密に申し送り、看護師にも報告をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便確認を行っており、状況によって薬剤調整も行っているが水分補給や運動、腹部マッサージも行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアを実施している。義歯については夜間は就寝前に外していただき、洗浄液につけて翌朝まであずからせていただいている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態や体調に合わせて、量、固さ、大きさを配慮し、食べやすいように気を配っている。また摂取量は記録されており、バランスを把握できる。水分は毎食後と午前午後の2回及び入浴後補給していただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症については、愛知県医師会の講習会資料を取り寄せるなどして、それを元に注意を喚起するポスターを自主制作し掲示し全員に周知している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消毒用アルコールや漂白剤を用いて清潔に心がけている。 食材についても基本的には購入した日に使い切るようにしており古いものは常時処分している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を飾ったり入居者の作品を飾るなどして、明るい雰囲気を出すようこころがけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには季節に似合ったものをつくり飾ったり掲示している。 あかるく清潔でゆっくりくつろげる共用空間を心がけている。 洗面所、トイレ、浴室などは特に気を付け気持ち良く使用できるよう努力している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや和室の畳で思い思いに過ごしていただいている。 皆で季節の花の折り紙や行事の写真をはるなどして、そこから話の輪が広がっていけるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご家族に、愛用されていたものを持ち込んでいただけるようお話しているが、持ち込まれない方もいらっしゃる。その方の好みを重視している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室は24時間換気を実施しているがそれ以外にも窓の開閉を実施し新鮮な空気を取り入れるようにしている。 またホールには十分な能力の空気清浄機も設置されている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーとなっており、トイレ、風呂、ホール内に手摺が設置されており、安全である。玄関には椅子を置き、靴の履き替えに利用していただいている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室にはネームプレートや好みの写真が掲げられ、混乱しないよう工夫している。またのれんなど吊るされている方もある。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周囲の花の水遣りや、畑の草取り、野菜の収穫など、お手伝い出来る方には声を掛け一緒に行っている。 また正面のスペースにはベンチを設け、日向ぼっこや夕涼みなどを楽しみながら行き交う人々と挨拶したりしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「グループホームよろこび」は母体組織が病院ということもあり、介護における医療面でのケアが特に充実していると考えています。人工透析をされている方にも、隣接する透析センターで透析を受けていただけます。日常的には看護師が常駐しており、さらに毎日きめ細かい健康状態チェックが行われている為、安心した日々を過ごしていただくことが出来ます。また入居者様やご家族様に対する「接遇」にも力を入れております。優しさあふれる対応、入居者様の尊厳を最重要視した対応を心がけております。職員一同は運営理念（よ…寄り添いながら ろ…老後の こ…こころを癒し び…美風のある住まいで）を共有し、入居者様に明るく広い空間の中で、ゆったり過ごしていただけるよう心をひとつにして、介護にあたっています。